

数学 I・A 第 5 問

三平方の定理により

$$BC = \sqrt{AB^2 + AC^2} = \sqrt{2^2 + 1^2} = \sqrt{5}$$

角の二等分線の性質により

$$BD : CD = AB : AC = 2 : 1$$

よって $BD = \frac{2}{2+1}BC = \frac{2\sqrt{5}}{3}$

方べきの定理により

$$AB \cdot BE = BD^2 = \left(\frac{2\sqrt{5}}{3}\right)^2 = \frac{20}{9}$$

AB=2 であるから

$$2BE = \frac{20}{9} \quad \text{すなわち} \quad BE = \frac{10}{9}$$

また $\frac{BE}{BD} = \frac{10}{9} \div \frac{2\sqrt{5}}{3} = \frac{\sqrt{5}}{3} = \frac{5\sqrt{5}}{15}$

$$\frac{AB}{BC} = 2 \div \sqrt{5} = \frac{2\sqrt{5}}{5} = \frac{6\sqrt{5}}{15}$$

よって $\frac{BE}{BD} < \frac{AB}{BC}$ (㉟) …… ①

ここで、点 E を通り直線 AC に平行な直線と直線 BC との交点を P とする。

$\triangle BPE \sim \triangle BCA$ であるから、 $\frac{BE}{BP} = \frac{AB}{BC}$ となり、①より

$$\frac{BE}{BD} < \frac{BE}{BP} \quad \text{よって} \quad BP < BD$$

したがって、辺 BC 上で点 D は点 P より点 C の側にあるから、直線 AC と直線 DE の交点は辺 AC の端点 C の側の延長上にある。(㉞) ④

$\triangle BAC$ と直線 EF にメネラウスの定理を用いると

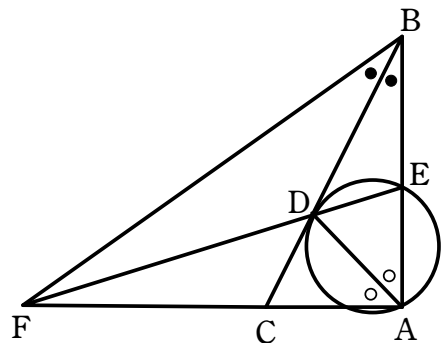
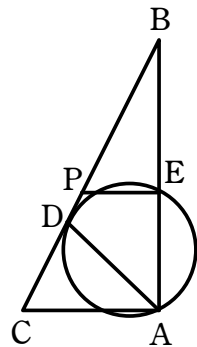
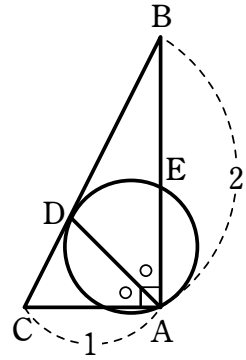
$$\frac{CF}{AF} \cdot \frac{AE}{EB} \cdot \frac{BD}{DC} = 1$$

$$\frac{CF}{AF} \cdot \frac{9}{10} \cdot \frac{2}{1} = 1$$

よって $\frac{CF}{AF} = \frac{5}{8}$

AC=1 であるから $CF = \frac{5}{3}AC = \frac{5}{3}$

$\frac{CF}{AC} = \frac{BF}{AB}$ より、 $BF : AB = CF : AC$ であるから、直線 BC は $\angle FBA$ の二等分線となる。また、直線 AD は $\angle FAB$ の二等分線であるから、点 D は $\triangle ABF$ の内心であるこ



とがわかる。(タ①)

参考 $FC : CA = 5 : 3$ であり、点 C が辺 FA の中点にないから、点 D は $\triangle ABF$ の重心ではない。

また、 $\angle FAB = 90^\circ$ であるから、 $\triangle ABF$ の外心は辺 BF 上にある。よって、点 D は $\triangle ABF$ の外心ではない。